

認知症サポーター養成講座
配布版

オレンジリング

認知症サポーターによる活動

この冊子は、認知症サポーターになられた皆様の「何かできないだろうか。」という思いに応えるために、すでに認知症サポーターとして活動している方々の体験を集めたものです。

名古屋市



認知症の方は、時として徘徊により行方不明となってしまうことがあります。

認知症サポーターの中には、徘徊している方に声をかけるなどの支援をしたことで、早期発見につながったという経験を持っている方が多くいます。こうした認知症の方への支援は、小さなことのように感じますが、住み慣れた地域で認知症の方が安心して生活する上では、とても大切で温かい支援です。

ここでは、徘徊している認知症の方に対応した経験を持つ認知症サポーターの声を紹介します。

徘徊している方を見つけたので110番通報しました



見知らぬ方から「ここはどこですか？」と聞かれたのですが、様子が少しおかしかったので、「あなたの家はどこですか？」と逆に尋ねてみました。その方は返答をされるものの、自分では帰宅できない様子なので、110番に通報しました。その後、警官に保護され無事に家族のもとへお帰りになりました。

認知症の方に安心してもらいました



ご近所の認知症の方が、帰り道が分からない様子だったので、プライドを傷つけないように、「〇〇さん、どうされたの？」とゆっくり話しかけ、その方の話を聞きながら一緒に歩きました。しばらくしてその方の家の近くまで歩いてくると、とても安心した表情になりました。

徘徊している方に声をかけました

見知らぬ方が、サンダルを両手に持って裸足で歩いていたので、「サンダルを履こうね。」とゆっくり話しかけました。自宅を尋ねても返事が無いので、「どうしたらいいのかな」と思っていたら、この方を捜していたご家族が運よくその場に来られ一緒に帰宅されました。ご家族からは何度もお礼を言われました。



民生委員として認知症の方を支援しました

町内の奥様が認知症で、昼夜を問わず徘徊していました。その方は高齢者世帯のため、奥様の徘徊を近所の方が見つけると、私（民生委員）に連絡が来ます。私はその都度迎えに行き、奥様を自宅に連れて行きました。

ご主人は時折、奥様に対して感情的に対応することがあったので、「奥様は病気だから。」と、ご主人には伝えるようにしました。

認知症の方を介護する家族は、毎日大変な思いで過ごしていると思います。このご夫婦が地域で安心して過ごすことができるように、私たちが受け入れ、見守り、支援することが大切だと思いました。



「おかえり支援サポーター」として徘徊している方を見守っています



認知症サポーターとして地域で何かできないかと思い、「はいかい高齢者おかえり支援事業」の「おかえり支援サポーター」に登録しました。名古屋市から捜索協力依頼のメールが届いたときには、自分の周りに行方不明者がいないか確認するようにしています。

地域の中で自然と声かけができるようになれば、認知症の方が行方不明となるのを未然に防ぐこともできると思います。

はいかい高齢者おかえり支援事業

認知症の方の徘徊による事故を防止するため、地域の皆さんの協力を得て、徘徊している方を早期に発見する取り組みです。

徘徊のおそれがある方の情報を事前に登録した上で、その方が行方不明となった場合に、家族等からの依頼により、行方不明となった方の身体的特徴や服装などの情報をおかえり支援サポーターなどに対してメールで配信し、情報提供を呼びかけています。



おかえり支援サポーターとは…

おかえり支援サポーターとは、この事業に協力いただく方々のことで、携帯電話などのメールアドレスを登録いただき、捜索協力依頼のメールを受けとった場合に、可能な範囲で捜索のための情報提供にご協力いただきます。

おかえり支援サポーターに登録するには、下記のQRコードを読み取り、アクセスしたページから空メールを送信するか、下記のメールアドレスに空メールを送信してください。

【QRコード】



【メールアドレス】 okaeri@sg-m.jp

おかえり支援サポーターは、地域の中で認知症サポーターが実際に活動できる方法の一つです。皆さんもおかえり支援サポーターに登録して、認知症の方を地域で支える役割を担ってみませんか？

見知らぬ方に声をかけるのは勇気がいります。でも、あなたの「大丈夫ですか?」「どうされましたか?」という一言が徘徊している方への支援となり、早期発見につながるのです!

職場で認知症に関する知識を役立てています！



大型スーパーマーケットの従業員が認知症サポーター養成講座を受講し、認知症に関する知識を生かしながら接客している事例をご紹介します。

大型スーパーマーケットが店舗を挙げて認知症の方を支援しています

従業員全員が認知症サポーター養成講座を受講！

- ◇ 港区にある大型スーパーマーケットは、多くの高齢者に利用されています。
- ◇ “従業員が認知症の理解を深めてほしい”という店長の思いから、幹部職員からパート職員まで全ての従業員（150名）が認知症サポーター養成講座を受講しました。

認知症サポーター養成講座を受講した後は・・・

- ◇ 従業員が店頭立つ際には、常にオレンジリングを身に付け、講座で学んだ対応方法で接客しています。
- ◇ 認知症と思われる高齢のお客様に対しては、必要に応じて、いきいき支援センターを紹介し、支援しています。
- ◇ 今では、いきいき支援センターとの連携が深まり、出張相談会場の提供やチラシの掲示など、店舗を挙げて高齢者や認知症に関する事業に協力しています。

【店内の様子】

レジ係の胸元でオレンジリングが輝いています！



次に、“職場でオレンジリングをつけていたら、同僚から認知症について相談されるようになった”という認知症サポーターの経験をご紹介します。

職場の同僚にちょっとだけ感謝されています

- ◇ 認知症サポーター養成講座を受講した後、職場でオレンジリングを身に付けていると、同僚の間でオレンジリングのことが話題に上がるようになりました。
- ◇ 最初はオレンジリングに関する説明をしていましたが、認知症サポーターであることがみんなに伝わり、同僚から親族の認知症や介護についての相談をされるようになりました。相談された時は、講座で得た知識を活用しながらアドバイスしており、ちょっとだけ感謝されています。



認知症サポーターが職場でオレンジリングを身につけていると、それがきっかけとなって、職場の同僚が認知症に興味を持ち、普及啓発が進むこともあるようですね。皆さんも職場でオレンジリングを身につけてみてはいかがでしょうか？

地域の中で認知症の方の見守りを行っています！



町内会の活動やグループ活動などの地域活動を行う中で、認知症サポーター養成講座を受講し、認知症の方の見守りなどを行っている事例をご紹介します。

お助け隊として高齢者の方の見守り活動をしています

町内会の有志で認知症サポーター養成講座を受講しました

- ◇ 町内会で、認知症と介護保険制度について学習する機会を持ちたいと考え、希望者を集めて認知症サポーター養成講座を受講しました。
- ◇ 講座を受講した後で、地域の中で認知症の方や高齢者を支援することができないかと相談した結果、町内会が中心となって「お助け隊」を立ち上げました。

我ら まちの“お助け隊”！

- ◇ 町内の認知症の方をできる限り把握し、認知症の方やその家族を見守り、声かけを行っており、はいかい高齢者おかえり支援事業（2ページ参照）にも積極的に協力しています。
- ◇ 認知症の方だけでなく、高齢者世帯や一人暮らし高齢者に対しても、新聞受けの確認を行うなど、見守りや声かけを行っています。
- ◇ こうした方々の中には、電球や蛍光灯の取替え作業のような“ちょっとした困り事”を抱えている方も多くいます。お助け隊はこうした“ちょっとした困り事”にも気軽に対応しており、“お助け隊がいるから助かる！”と頼りにされています。

お助け隊とは、高齢者世帯や一人暮らし高齢者などが、暮らしの中で感じる“ちょっとした困り事”を、ボランティア活動で支援する、「ご近所グループ」の名称です。

認知症サポーターが高齢者サロンを自主的に運営しています

サロン参加者全員が認知症サポーターです！

- ◇ 自宅を開放して高齢者サロン（常時 10 名程度が参加）を開設したところ、参加者の中に認知症の方がいました。参加者全員に認知症についての知識が必要と考えて、“認知症サポーター養成講座を受講しよう！”ということになり、民生委員や近所の方々と一緒に講座を受講しました。
- ◇ サロン参加者は認知症サポーターになって、認知症の方にこまめに声をかけるなど、仲間に対する対応が変化し、認知症の方も楽しく、一緒に参加できるようになりました。また、サロンのプログラムとして、認知症予防プログラムを取り入れています。参加者同士で楽しみながら継続して実施することができています。
- ◇ 今では、お互いに支えあい、見守り、継続してサロンに参加できることが、地域の中でも話題となっています！



認知症サポーターが一人で“できること”は限られていますが、サポーター同士が協力しあうことで“できること”が大きく広がりますね。



認知症サポーター養成講座では、認知症の方への接し方についても学習します。ここでは、認知症サポーターが講座で学んだ技術を発揮して、認知症の方の良き話し相手となっている事例をご紹介します。

傾聴ボランティアグループ「こころん昭和」の活動

認知症サポーター養成講座で学んだ知識を生かして傾聴活動をしています

- ◇ 傾聴ボランティアグループ「こころん昭和」が活動をする上で、認知症の方との関わりが多いことから、グループの会員全員で認知症サポーター養成講座を受講しました。
- ◇ 活動場所は、昭和区内の特別養護老人ホームです。ショートステイ（短期的に施設に入所するサービス）を利用している方を対象に、月2回訪問して傾聴活動を行っています。講座で学んだ対応方法がとても役立っています。

傾聴するときにはこんなことを心がけています

- ◇ 同じ話を繰り返される方には「そうですね」と相づちを打って、その方の話に耳を傾けています。
- ◇ 昔を回想しやすいような会話を心がけています。



活動を続けていると嬉しい事も・・・

- ◇ 定期的に訪問するので、利用者と顔なじみの関係を築くことができ、利用者の中には私たちが来るのを楽しみに待っていてくれる方もみえるようになりました。

近所の認知症の方の話し相手になりました

ご近所の方から依頼され・・・

- ◇ ご近所の方から「夫が認知症になって困っています。自分は日中仕事があるので、夫の話し相手になってもらえないでしょうか。」とお願いされました。自分は認知症サポーター養成講座を受講しており、また妻が認知症だったこともあって、その依頼を快諾しました。
- ◇ ご主人は、施設に入所するまでの約4年間、毎日、私の自宅を訪問され（中には滞在が3時間程度にわたる日もありました）、私は講座で学んだことを生かしながら、話し相手となり、ご主人の話に耳を傾けました。

ボランティア活動にも一緒に参加しました

- ◇ そのうちに、小学生の登校時の見守り活動にも一緒に行けるようになりました。自分が話し相手になったことで、その方やご家族のお役に立つことができたかなと思います。



認知症の方の話に耳を傾けることは、その方の安心感にもつながります。認知症サポーターとして、認知症の方に“安心感”を与えられる存在になれば、とても嬉しいことですね。

認知症の方への対応方法を分かりやすく伝えています！



認知症の方への接し方は、寸劇で実際に接する様子を演じることで、分かりやすく伝えることができます。

最後に、認知症サポーターが寸劇で認知症の方への接し方を分かりやすく伝えている取り組みをご紹介します。

めいらく寸劇グループとして活動しています

- ✧ 中村区で開催された「認知症サポート講座（寸劇コース）」を修了後、自主グループ「めいらく寸劇グループ」を結成し、中村区社会福祉協議会の協力の下、寸劇を生かした普及啓発活動を行っています。
- ✧ グループのメンバーは、寸劇上演会に備えて月1回、練習会に参加しています。練習会には本物の俳優が講師として登場！メンバーの練習にも熱がこもります。
- ✧ 寸劇の上演は、老人クラブやコミュニティセンターなどで実施されている「はつらつ長寿推進事業」の他、認知症サポーター養成講座の中でも行っています。
- ✧ 寸劇の内容は、認知症高齢者がいる家庭の日常的な様子を題材にしています。私たちが認知症高齢者や家族などの役を演じ、認知症の方の特徴や正しい対応方法について観ている方が理解しやすい内容となっています。実際に寸劇を観た方からは、“認知症の方への対応がとても分かりやすかった！”との声を頂いています。
- ✧ 演じている私たちも、客席の反応が直接伝わってくるのが嬉しく、楽しみながら演じています。ちょっとした緊張感も、“いい感じ”です！

認知症サポート講座は、中村区において認知症の方を応援する活動に携わる人材を育成することを目的に開催された講座です。傾聴コースと寸劇コースがあり、寸劇コースは計5回のプログラムで、初回は認知症サポーター養成講座、最終回は寸劇の発表会を実施しました。



【上演の様子】

認知症の方への声のかけ方などを実演することで、多くの方に分かりやすく伝えることができます。認知症の良き理解者として、演じる人が楽しみながら寸劇を行っている時、観ている方々にもその優しさが伝わりますね。

認知症サポーターとしてのスタートは

認知症について正しく理解し 偏見を持たず

認知症の方や家族を温かい目で見守ることで!

あなたの周りには

あなたの優しい気持ちを生かせる場がきっとあります!



編集・発行：名古屋市健康福祉局高齢福祉部地域ケア推進課
社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会

印刷業者：名古屋ライトハウス明和寮
発行年月：平成 25 年 4 月
発行部数：6,000 部

この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。